

埼玉と東京の水を支えた見沼 代用水、武蔵水路の歴史と役割

令和4年

10月20日(木)受付 13:00

日時

講演1 13:30~14:35

世界かんがい施設遺産 『見沼代用水』

講演2 14:45~15:50

県都への取水口と武蔵水路の開削と役割

講演1 13:30~16:20終了

会場

行田市総合体育館2階研修室 定員120名



井澤 弥惣兵衛為永

利根大堰と取水口

● 井澤弥惣兵衛為永(いざわ やそべえためなが)

江戸時代の享保12年(1727)幕府・徳川吉宗の命を受けた井澤弥惣兵衛為永は、見沼溜井の広大な地を干拓して新田開発し、水源を忍藩を流れる利根川須加の川岸を取水口として、武蔵北部から水路を開削し武蔵南部の為井を新田開発した地まで導水する工事をやり遂げ、事業を成し遂げた。これにより、この水路は「見沼代用水」と呼ばれ、現代までも水を送り続けている。

● 満々と水を湛えた利根大堰とその取水口

水路は行田市の大堰での取水を運び、鴻巣市で荒川に注ぐ14.5km。合流した水は志木市秋ヶ瀬取水堰取水口で取水、都浄水場を経て水道水として都内に送水。秋ヶ瀬堰から下った水は、隅田川や放水路の水質浄化に役立つ。

ウィキペディア資料・荒川上流河川事務所資料より



講師

講演1 羽鳥 修弘 (はとり のぶひろ) 先生

見沼代用水土地改良区 管理部長

江戸の繁栄を支えた
見沼代用水生みの親

講師

講演2 齊藤 靖 (さいとう やすし) 先生

独立行政法人 水資源機構 利根導水総合事業所 副所長

※見沼代用水土地改良区
ホームページより

※上履き(スリッパ等)持参と マスク装着、各自で新型コロナ感染対策の準備をお願いします。

※質問:行田市民大学同窓会長:尾畑宜成 e-mail:gyoudaobata@yahoo.co.jp 電話 048-554-9407

担当(在校生は申込有):同会・企画研修委員長:田口修 048-554-7778 携帯 090-1659-4576